

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南中学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語、英語における「書くこと」、数学における「図形」の領域での正答率が全国平均を上回りました。特に記述式の問題の正答率が全国平均よりも高く、普段の授業での振り返りで、根拠を明確にして自身の考えを書かせている成果だと考えられます。空間を正確にイメージして理解する力や、ある一定の条件を証明する力に関しても、日々の小テストやドリルによる反復練習、グループでの教え合いの活発化により、成果が出ているものと考えられます。

一方、数学の「データの活用」や国語の「話すこと」、英語の「読むこと」の領域では課題が見られました。英語においては、長い英文を理解する力、国語や数学においては複数の資料を結び付けて回答にたどり着く力に課題が見られます。それ以外でも、生活に関係のある問題だけでなく、社会問題を広く問う問題にも慣れさせていく必要があると考えられます。学力テストのみならず、チャレンジテストでも同様の傾向が見られました。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

〔国語〕

- 「話し合い」についての問題の正答率が、府や全国の平均を上回ることができました。3年間を通し、学期に1回以上のスピーチの取組みを積み重ね、普段の授業の中でも、自分の考えや感想をグループで交流し、また振り返りをグループで共有するなどの取組みが成果として表れていると考えられます。

〔数学〕

- 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題の正答率は、全国平均を大きく上回ることができました。文字式を導入する際、抽象化の概念の習得に向けて丁寧に練習を重ねてきたことが定着につながっています。
- 「回転数について理解しているかどうかをみる」問題の正答率も、全国平均を大きく上回ることができました。デジタル教科書を用い、視覚支援を大事にした授業が定着につながっています。

【課題】

〔国語〕

- 「物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、全国平均を下回っています。自分の意見や感想は文章に表すことができるが、想像することや、それを正しく美しい文章で表現することに課題が見られます。今後は、より分かりやすい表現、伝わりやすい文章にするための言葉選び、語順にこだわった表現学習に取り組む必要があります。

〔数学〕

- 「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」問題の正答率は、全国平

均を下回りました。授業でミニプリントを実施、ICTを活用しドリル課題に取り組むことで、基礎計算力の定着を図ります。

- 「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題の正答率も、全国平均を下回りました。探究型の授業を取り入れ、自分たちでデータをまとめ、発表する取組みをさらに進める必要があります。

【別紙様式】

3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	57.6	77.6	76.1
1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	68.4	78.4	68.8
困りごとや不安がある時に、先生や学級にいる大人にいつでも相談できますか	60.1	80.0	67.5
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか	81.7	92.0	86.1
将来の夢や目標をもっていますか	64.6	63.2	66.3

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的割合が、昨年度と比較して大きく上昇しました。この成果の要因としては、2030年までに達成すべき具体的な目標に向け、SDGsの取組みを続けていることが考えられます。第2学年を中心として、社会を良くするための様々な課題を、小グループでの話し合いの中から見つけ出し、プレゼンテーションの形で全体へ共有していきました。また、以前のコロナ禍の状況から、地域とのつながりも徐々に回復しだし、昨年度は中学校区のイベントとして「わくわくフェスティバル」を復活させることができました。地域の行事に積極的に参加することで、自分も地域の一員であるという自覚が育まれています。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」の肯定的回答率は、全国平均を大きく上回っています。本校の英語学習では、帯活動として生徒同士で英語を使ったコミュニケーションを図る時間を設定しており、このような活動が即興的なやりとりの力の向上につながっていると思われます。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学級にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的割合は、全国平均を大きく上回っています。要因としては、日頃より発達支持的生徒指導を大切にし、どの教員もすべての生徒に対して丁寧に寄り添い、時には粘り強い生徒指導で生徒を導いている結果だと考えられます。また、教育相談期間には生徒一人ひとりと向き合い、生徒が自分の思いや悩みを相談しやすい環境づくりも進めています。
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか」の肯定的回答率は、全国平均を大きく上回っています。本校は今年度、「スマートスクール実現モデル校」として、効果的な探究学習の推進と情

報活用・発信能力の育成をめざしています。1人1台端末を活用し、生徒同士による意見交換や発表などお互いを高めあう学びが、思考力、判断力、表現力などの育成にもつながると考えています。

- 「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定的回答は、全国平均を下回っています。キャリア教育の一貫として、各分野の専門家を講師として招き、職業講話を実施していましたが、今年度からは職業講話に加え、第2学年で職場体験学習として各事業所での学習を再開することで、自分の将来に向き合える力を育んでいきます。